

# 一刀領談

下條正男



しもじょう・まさお 長野  
立大と東海大の客員教授。島  
根県の第5期竹島問題研究会  
の座長を務める竹島研究の第  
一人者。23年3月末まで本紙  
客員論説委員を務めた。73歳。

いたずらに古い価値観を  
守り、時勢に応じて対処で  
きないたとえとして、「株  
を守りて兔を待つ」の故事  
が中国の思想書『韓非子』  
に載っている。

宋の国の農民が、たまた  
ま走ってきた兔が木の切り  
株にぶつかって首を折って  
死んでしまったところを見  
て、畑仕事をやめて兔が来  
るのを待ち続けたが兔は捕  
れず、国の笑い者になった  
という話である。

この故事を思い出したの  
は、ロシアを単独で訪問し  
た鈴木宗男参院議員がその  
結果を北海道で報告したの  
を見て、自見英子沖縄北方  
担当相も北海道を「視察」  
したと聞いたからだ。

10月初め、ロシアによる  
ウクライナ侵略が続く中で  
訪口した鈴木氏は、現地  
で「ロシアの勝利を確信して  
いる」と発言。帰国後、北  
方領土の元島民らと北海道  
根室市で面会した際、墓参  
や北方領土周辺での日本漁  
船の安全操業をロシア側に  
要請したとして、ロシアと  
の関係維持する政治家の  
必要性を力説した。

すると自見氏も北海道を  
視察。元島民との懇談会  
は交流事業の再開を「最優  
先の事項」とし、「特に北  
方墓参は重点を置いて進め  
ていく」と語ったという。

## ■崩れた四島返還

元島民らの墓参や「ビザ  
なし交流」事業の中断は、  
ウクライナ侵攻への対口制  
裁に日本が参加したからだ  
けではない。

「ビザなし交流は本来、日  
本人と北方四島在住のロシ

## 「守株」続く日本



北海道根室市の納沙布岬を訪れた自見英子  
沖縄北方相（右から2人目）＝12日午前



モスクワで取材に応じ  
る鈴木宗男参院議員＝  
3日（共同）

# 専門性重視した起用を

ア人が相互理解を深め、四  
島返還のための環境づくり  
を目的に実施されていた。  
そのためビザなし交流事業  
では、北方四島に住むロシ  
ア人たちの日本訪問も行わ  
れていた。

ところが2010年ごろ  
から状況が変わった。それ  
は04年と10年の2回、ビザ  
なし交流で色丹島と国後島  
に渡った私にも実感できる  
ものだった。10年9月、現  
地では「当時のプーチン  
首相が国後島を訪れる」と  
いううわさが流れていた。

そして実際、11月にメドベ

ア人が相互理解を深め、四  
島返還のための環境づくり  
を目的に実施されていた。  
そのためビザなし交流事業  
では、北方四島に住むロシ  
ア人たちの日本訪問も行わ  
れていた。

## ■竹島問題が遠因

その遠因は、2005年  
3月に島根県議会が「竹島  
の日」条例を定めようとし  
た際の日本政府の対処にあ  
る。島根県をけん制し、日  
本政府が条例の成立を阻止

その理由の一つは、日本で  
は議院内閣制が採られ、大  
臣はもちろんのこと、副大  
臣や政務官まで国会議員が  
就いているからだ。  
大統領制を採る韓国では  
大統領が首相を指名して国  
会が承認し、長官（大臣）は  
専門性を重視して国会議員  
以外から選ばれることが庄  
倒的に多い。日本と歴史戦  
を戦う「東北アジア歴史財  
団」のトップも専門家が就  
き、国務大臣クラスの権限  
がある。日本で「守株」が  
続く理由もこの辺にある。

＝随時掲載＝

しよつとしたことでロシア  
側は、日本には領土問題を  
解決する意志がないと判断  
したのである。  
事実その3カ月後、駐日  
ロシア公使が北方領土問題  
を歴史問題と発言し、解決  
済みの問題としていた。今  
回、鈴木氏はロシアのガル  
ーシン外務次官と面談した  
そうだが、彼こそが当時の  
ロシア公使で、北方領土問  
題を解決済みの歴史問題と  
した人物の一人である。  
これはビザなし交流や元  
島民の墓参が、北方領土問  
題の本質ではないことを指  
している。日本の国家主権  
が侵され続けている現実こ  
そが問題の本質である。沖  
縄北方担当相に就任した自  
見氏が、交流事業の再開は  
「最優先の事項」といくら  
元島民に語っても、それは  
過去の話である。  
では日本はなぜ、臨機応  
変に対応ができないのか。